

別紙様式

令和7年度 学校評価報告書

小樽市立潮見台小学校

校長 赤松 慎也

【評価】 数値目標に対する達成度を、以下の基準で評価することを基本とする。

A:100%以上 / B:80%以上100%未満 / C:80%未満

※ 評価する際には、学校関係者と密接な連携をとり、単に数値の達成率を見るだけでなく、目標達成に向けたプロセスや、児童生徒の成長の度合い、具体的な取組の内容などを総合的に評価すること。

1 本年度の重点目標

<p>主体的に考え、自ら行動し、 粘り強く努力する子どもの育成</p>	<p>(目指す姿) ① 学び方を身につけ、自ら学ぶ子 ② 目標を持ち、最後までやり遂げる子 ③ 命を尊び、思いやりを持てる子</p>
---	--

2 自己評価結果・学校関係者評価の概要と今後の改善方針

小樽市教育推進計画の目標	施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
			評価	取組状況・達成状況	
1 未来を創る力の育成	確かな学力の育成	家庭学習時間ゼロの児童を0にする。更に(学年×〇分)にこだわらず、高学年低位層の児童を中心にハードルを下げた取組を促す。【学年×〇分の1回答を10%以下に】	B	家庭学習時間ゼロの児童を0にする取組は、できている保76.9%、児82%、できていない保23.1%、児18%。今年度からの取組であり、5・6年生を中心に引き続きゼロを0にする取組を家庭と連携して継続する。	○
	特別支援教育の充実	合理的配慮やユニバーサルデザインを取り入れた環境、学級、授業づくりについての研修を年1回以上行う。	A	・特別支援ブロック視点と子ども像について全体で共有。個に応じた適切な教育課程の編成や自立活動の教育課程上の位置付け、フォーマルアセスメント、インフォーマルアセスメントの重要性について研修を深めた。(6/5) ・また8/5には特別支援教育について特支コーディネーターが中心となって研修を深めた。	◎
	国際理解教育の充実	「外国語活動及び外国語の学習が好き」と回答する児童の割合を70%以上とする。	B	専科指導(小中一貫・連携教育への支援)加配が継続。中学校英語教員による専門的な指導の成果が出ていない。肯定的回答の割合は54%と昨年61%、一昨年60.27%から低下の一途。子どもたちの意欲や関心を高める授業改善が必要。	○
	理数教育の充実	「理科の学習が分かる」と回答する児童の割合を94%以上にする。	B	専科指導(理科)加配における専科教員による専門的な指導を継続。後期児童アンケート「理科の学習が分かる」の肯定的回答の割合は91%(昨年92%)と惜しくも目標未達。体験的で楽しい授業が展開されているので継続したい。	○
	情報教育の充実	・4年生以上で情報モラル教室を実施する。 ・校内研修でICT研修を複数回実施する。	A	・昨年同様、外部講師を招き3～6年生で情報モラル教室を実施。4、6年生は保護者向けの内容も取り入れ保護者への啓発を図った。 ・校内研でICTに関するミニ研修を2回実施(5/7、1/29)。キャンパの使い方、振り返りや情報共有の仕方について学びを深めた。	◎
	キャリア教育の充実	・全ての学年で見学学習や外部講師による授業を実施する。 ・5・6年生で大学生と連携した学習を取り入れる。	A	1年生は水族館、2年生は市立図書館と南樽市場、3年生は警察署と消防署、4年生は校区内の歴史的建造物や札幌市民防災センター、発寒清掃工場などの見学、性教育を実施。5年生は宿泊研修での環境教育、小樽職人の会製作体験、社会福祉協議会による福祉体験(高齢者体験)、ラポール南樽による講話(福祉)、小樽幼稚園訪問、(株)協和総合管理山本社長の授業、6年生は租税教室、性教育を外部講師を招き実施、札幌学院大の学生と交流授業を行った。	◎
改善方針	<p>●(学年×〇分)にこだわらず、高学年低位層の児童を中心にハードルを下げた取組を継続。家庭学習時間0の児童ゼロを目指すと共に、上位層の児童には前向きで好意的な言葉がけで家庭学習習慣の定着と内容の習得を目指す。 ●小中連携加配の配置について中学校と連携し、更なる授業改善を図る。 ●加配教員によるきめ細かな授業が実施されており、実験・観察等も創意工夫に満ちている。学習の成果に関わる目標を継続する。</p>				
学校関係者評価委員による意見	<p>●目標は概ね達成又はそれに近い実績を上げている。そのような中で、国際理解教育は、外国語が好きと答えた児童の比率が年々低下傾向にあるので、楽しんで学べるような工夫が必要だと思います。 ●「確かな学力」では、個々の目標を決め達成することが喜びとなるのでは。全体の達成率が上がるように思う。「外国語」に関心のもてる方法として、会話を外国語で行う時間をつくってみてはどうか。</p>				

2	豊かな心の育成	道徳教育の充実	「自分にはよいところがあると思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。	A	R5・79、R6・84、今年85%の目標達成。児童への言葉がけ、日常の接し方、校内の雰囲気の結果がようやく結果に現れた。引き続き現在の取組を継続し、自己肯定感を高めていく。	◎
		ふるさと教育の充実	5年生、総合的な学習の時間に、校区内の会社と連携した授業を新設する。「会社の様子が分かった」の割合を80%以上にする。	A	協和総合管理(株)の協力を得て、会社の概要や地域の産業、労働の目的や社会とのつながりを意識した学びをスタートできた。実際に会社を訪問し見学したり、山本秀也社長が学校に来て子どもたちに話していただいたりした。【97.3%…1名欠席36/37】	◎
		読書活動の推進	「読書が好き」と回答する児童の割合を80%以上にする。	B	R5・78%、R6・81%、今年75%。学校司書の配置による掲示の工夫、読み聞かせ、児童会活動による読書活動の推進を継続するとともに、新刊図書が大量に入ったため、本の魅力をPRする活動を進めていく。	○
		体験活動の推進	6年生、総合的な学習の時間に、札幌学院大学と連携し将来を見通した授業を新設する。「将来の見通しが持てた」の割合を80%以上にする。	A	札幌学院大学と連携し、「人生プランシート」を作成。児童と学生が交流する授業を行った。児童は今後の見通しを、学生は各自の子ども時代の栄光と挫折を共有することで、将来に見通しを持つことができた。95.4%(2名欠42/44) 「小中合同グリーン作戦」、潮見が丘神社祭でのお神輿担ぎや松前神楽体験も継続。	◎
		コミュニケーション能力の育成	「自分から進んであいさつをしている」と回答する児童の割合を95%以上にする。	B	R6・91%、今年87%で目標未達。児童会活動を中心に挨拶運動、校長、PTA会長が毎朝声掛けする等改善に向けて取り組んだが目標を達成できなかった。毎朝児童玄関前で声掛けしていても自分から進んで挨拶できる児童の割合は増えていない印象であり、改善が難しいと感じているが、諦めることなく継続する。	○
		いじめの防止や不登校児童生徒の支援の充実	全ての学級でいじめの未然防止に向けた授業を行うとともに、いじめアンケートで「いじめはどんな理由があっても許されない」と回答する児童の割合を95%以上とする。	B	91%と目標に近づくも僅かに届かなかった。各学級での道徳や学活での指導、生活場面における状況に応じた指導と学校全体で取り組んできたことが結果に結びつきつつある。	○
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全校児童が安全・安心して生活できる場を目指し、子どもたちの自己肯定感を高めるための声掛け、接し方、子どもたち同士が互いのよさや頑張りを認め合う機会を設けるなど教師側の研修・情報共有を密にし、取組を向上する。</li> <li>●児童会の挨拶運動や各学級での指導と合わせて、全校朝会での講話、毎朝の玄関前での声掛けの継続で改善を図る。</li> <li>●いじめの認識に関しては、「そう思わない」5名、「分からない」8名がいるので、この人数を減らしていく取組が必要。道徳や行事等、日常の事象から引き続き、「いじめはどんな理由があっても許されない」ことを繰り返し指導する。</li> <li>●数値目標は大切ですが、87%の子どもが自分から挨拶できている状況を考え、円滑なコミュニケーションを図ることの意義や大切さが伝わり、実践できる児童の育成に力を入れた取組を目指す。</li> </ul>					
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな心は一人一人の内面の働きで、外面から図ることは難しい面があります。自覚意識が芽生えるまで待つことも大事と考えます。数値目標は大切にしながらも、それに縛られず忍耐強く取り組んでいければよいと思います。</li> <li>・「いじめ防止・不登校」について、いじめ・不登校は、些細なことが原因だったりする。そんなつもりでなかった等もあったり。例えば、たてわり班活動による教室清掃活動などでの他学年とのつながりが協力、助け合いの深まりになると思う。そんな先輩になりたいとか……</li> </ul>					

小樽市教育推進計画の目標	施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価	
			評価	取組状況・達成状況		
3	健やかな体の育成	体力・運動能力の向上	「体育の授業や外遊びが好き」と回答する児童の割合を95%以上にする。	B	R5・91、R6・92、今年88%と安定した好結果ではあるが、気になる微減。昨年度の体育専科巡回指導の活用による授業改善、準備運動や導入のトレーニングメニューの改善、体育館の掲示等を見直し、休み時間に楽しく体を動かせる工夫を継続し90%台を保ちたい。	◎
		食育の推進	「朝ごはんを食べて登校している」と回答する児童の割合を90%以上にする。	A	R6・93.4、今年91%と目標を達成するだけでなく、学校全体に定着しているように感じている。栄養教諭による食育授業を全学級で実施し、栄養や食生活についての正しい知識の指導を継続したい。	◎
		健康教育の充実	・「早寝・早起きを心がけている」と回答する児童の割合を80%以上にする。 ・「マイナス・プラス・チャレンジ」を実施し、80%以上の児童がスマホ時間の削減に取り組む。	B	早寝早起きはR5・76、R6・80.1、今年74%と年度によって乱高下している。「マイナスプラスチャレンジ」は、3回実施し、約50%の児童が削減を実現した。家庭学習と同様に、あまり欲張らず、ハードルを下げた取組が成果につながっているため、粘り強く継続していく。	○
改善方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>●3つの項目中、2つで目標を達成することができなかった。「達成できなかった体力・運動能力の向上」についても3年連続で未達の上、減少に転じている。90%台を回復できるよう取組を向上させる。また、新たな体力・運動能力に関する目標を模索し、無理なく継続でき子どもたちが自分の能力向上を実感できる取組を目指す。</li> <li>●新たな取組である「マイナスプラスチャレンジ」を実施。スマホ時間の増加に歯止めをかけるため、一週間、家庭でスマホ時間を10分以上を目安に削減し、学習、運動、健康(睡眠や料理も可)に関する時間を10分以上増やす取組を行った。保護者も巻き込み、健やかな体作りに向けて取り組めたので、焦らずすぐに成果を求め過ぎず、長期的視点に立って継続したい。</li> </ul>					
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外遊び好きは90%前後を、早寝早起きは75%前後を毎年維持しており、多少の波はあるものとして、今の目標に向かって工夫を続けて欲しい。ただ、朝ご飯を食べて登校は90%以上達成しているものの、下降傾向にあるので、関係があれば気になるところなので、スマートフォンの使用時間と合わせて注意深く見守って欲しい。</li> </ul>					
4	家庭・地域との連携・協働の推進	家庭教育支援の充実	「お子さんは、家で(学年×10+10)分間以上学習している」に全くしていないと回答する保護者の割合を10%以下にする。	B	12.8%と、惜しくも未達。学習内容の例示、将来を見据えた取組であること、その重要性を児童だけでなく保護者への理解・周知を図ったが結果につながらなかった。校長室前の「潮小家庭学習」の取組は、100冊に達する等一定の効果があつたので、取組を継続し目標達成を目指す。	○
		学校と地域の連携・協働の推進	・PTA、CSに呼びかけ登下校時の見守りを実施し、交通事故をゼロにする。 ・CS小中合同クリーン作戦を実施し、校区内を清掃すると共に、互いに親睦を深め連携を強化する。参加人数150人以上を目指す。	A	・登下校の見守りは、PTA会長、学校運営協議員にほぼ毎日協力いただき事故ゼロを実現した。 ・クリーン作戦は、200名近くの協力得て清掃することができ、目標を達成すると共に、互いに親睦を深めることができた。次年度は潮祭りの練りこみを重点に改善を図りたい。	◎
改善方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>●家庭学習時間ゼロをなくすことを重点に、参観日、個人懇談、学級通信で保護者に働きかけを行い、一定の成果が得られたので継続する。</li> <li>●「マイナスプラスチャレンジ」と連携し、保護者も巻き込んで家庭で学習する時間を設定するよう働きかけを行う。</li> <li>●保護者にも様々な家庭学習取組例を紹介すると共に、校長室前の家庭学習ノートコーナーを継続し取組を知らせる等、家庭でも子どもたちのがんばりを称賛いただけるよう情報を提供する(通信、懇談)。</li> <li>●登下校の安全確保の観点、教職員の時間確保の取組を継続する。【放課後学習、長期休業中の学習会は今年度から廃止】</li> </ul>					
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習の習慣化は大切なことなので、保護者への働きかけは、あきらめることなく継続をお願いしたい。</li> <li>・地域も高齢化が進み学校との関係が希薄になりがちですが、できる限り連携を取りたいと考えているので、今後も働きかけをお願いしたい。</li> <li>・「家庭教育支援」将来どうなりたいかを目標に、自分から進んで学べる子であるために、地域(町内会)としても協力していきたい。町内会行事に参加して欲しい！！</li> </ul>					

5	学びと育ちをつなぐ学校づくりの実現	学校段階間の連携・接続の推進	・幼保小間で交流する機会を年1回以上持つ。 (校区内の全ての保育所、幼稚園を訪問し連携を深めると共に情報共有するための基盤を作る。)	A	校区内の全ての幼保(小樽幼稚園、あおぞら保育園、龍徳保育園、若竹保育所)を訪問し情報交換することができた。また、5年生が小樽幼稚園とあおぞら保育園を訪問し交流学習を行うなど、子ども同士の交流も実現できた。	◎
		教育環境の整備・充実	「授業でPC・タブレット端末などのICT機器をほぼ毎日使用している」と回答する2年生以上の児童の割合を70%以上にする。	A	毎日70%で目標達成。週3回以上が27%で全体的にICT機器の活用が進んでいる結果となった。職員でミニ研修を実施し、パドレットやキャンバの活用を促したことで、振り返りはタブレットを活用することが全校で定着してきた。他者参照の活用も日常的に見られるようになってきた。今後もよりよい活用・効果的な活用に向けて取組を進めていく。	◎
		教職員の資質・能力の向上	・校内研修の中で特別支援教育に関わる研修を2回以上実施する。 ・校外の研修会(オンライン・オンデマンド含む)に参加するよう促す。	A	Plantの活用が定着した。管理職からの働きかけや教職員一人一人が経験年数や校務分掌などを考慮しながら自主的に研修会に参加(年2回以上)し、自身の資質能力の向上に努めることができた。	◎
		学校運営の改善	全教職員の平均時間外在校等時間を月22時間以下にする。	B	全教職員の時間外労働の平均時間が23.46時間(R7.12末)となっており、目標に肉薄も未達成。学校全体の改革に加えて、教頭の働き方改革を重点に、学校日誌のデジタル化、行事黒板の廃止とC4th掲示板の活用、児童の出欠管理をテトルとC4th+事務職員との連携が効果的であり、一定の成果があった。時間外勤務45時間以上1名、40~45時間が5名となっているため、引き続き一人も取り残さない改善を目指す。	○
		学校安全教育の充実	外部講師による交通安全訓練を実施する。体験的に実践的な訓練と、日常的な交通安全の啓発を複数回実施する。	A	生活安全課指導員と連携し、動画の視聴、模型を使った内輪差を体験することができた。説明だけでなく実際に模型を使って体験したことで、交通安全についての意識が高まり、命の大切さと、自分の命は自分で守ることを体験できる機会になった。PTA、CSと連携した登下校の見守り活動も継続でき、安全指導を徹底できた。	◎
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●校区内全ての幼稚園や保育園との学校間連携の取組を継続し、「小1プロブレム」解消に向けた幼保小連携を推進した。</li> <li>●目標達成に満足せず、タブレットを「使用する」から「効果的な活用や授業改善」に向けて目標を設定変更し、一人一台端末を効果的に活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指した授業改善のために、研修をより一層推進する。</li> <li>●時間外勤務45時間以上の職員が0になるよう引き続き働き方改革を推進する。</li> <li>●小学校においてPC・タブレットの使用を促進し、児童の利用割合を増やすことは、これからの時代に必要な情報活用能力を育む上で重要。一人一台端末を効果的な活用し、授業だけでなく、家庭学習でも積極的に活用する取組を推進する。その際には、適切なルールを設け、安全で効果的な学習ツールにするよう配慮する。</li> </ul>					
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが幼保から小学生、小学生から中学生へとスムーズに移行できるよう交流や情報交換を重ねる効果も上げてきており、今後も改善しながら進めていただきたい。</li> <li>・職員の働き方改革は今一歩努力されたい。</li> <li>・教育環境では財源で課題は多々あるが、ICTは活用が進んでおり、先生も進展に追いつくのが大変かと思いますが、よろしく願いたい。</li> <li>・タブレット促進されているし、必要と思われるが、生活面でWi-Fi利用できない方がいるのでしょうか。</li> <li>・職員の時間外、働き方改革等があると思うので、地域と共同で考えていけたら良いと思う。</li> </ul>					
社会教育に関連する目標(目標6~8)		・市立図書館、総合博物館の利用促進。(最低1回利用する) ・社会福祉協議会、ラポール南樽と連携し、福祉に関する体験的な学習を継続する(高学年が各団体と1回以上学習する)。	B	市立図書館は2年生が生活科で訪問し活用した。社会福祉協議会、ラポール南樽は5年生が高齢者疑似体験や福祉に関する学習で活用した。総合博物館は今年こそは活用をとお願いが実現できなかった。3年生での活用を模索したが学級が落ち着かない状態になったり、バス利用がネックとなり実現しなかった。	○	
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●総合博物館の活用については、ここ2年、活用模索したが、移動手段、特にバス利用に関しての課題がクリアできず、今後も改善が見込めないことから断念し、今後は、図書館や他施設の利用を継続し、遠足とからめる等の工夫を行うことで施設を活用した学習の充実を図る。</li> <li>●社会福祉協議会、ラポール南樽様に協力いただいた高齢者疑似体験や福祉に関する講話を今後も継続する。</li> </ul>					
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遠足との組み合わせは良いアイデアだと思います。一方で社会教育施設は利用されなければ施設の持ち腐れになるので、教育委員会に対し、交通手段を含めて学校が活用できるよう要望を市内全校で働きかけたらどうか。</li> <li>・「身近な地域」学校区内に博物館の館長さんが住んでいるので、学校に来てもらい、話を聞くのも良いと思う。</li> </ul>					